

令和6年度（2024年度）学校評価報告書

令和7年（2025年）2月26日

北海道教育委員会教育長 様

北海道札幌聾学校長 四木 定宏

次のとおり令和6年度（2024年度）の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

仲間とともに、粘り強く、主体的に学びに向かう子どもの育成

2 本年度の経営の重点

目指す子どもの姿の実現に向け、全職員が協働で、チーム力を発揮して教育に邁進する。

3 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
「目指す子どもの姿」の達成に向けた教育活動	<ul style="list-style-type: none">・目指す子どもの姿を具体的にイメージして、日常の教育活動を行うことで、子どもに主体的に学びに向かう姿勢が見られてきた。・体験や経験に基づく学習指導の一層の充実が必要である。	<ul style="list-style-type: none">・保護者アンケートに比して教職員自己評価が低い傾向にある。のびのびと活動している子どもの様子から、教員には自信をもってほしい。・体験学習の充実という点では、地域を巻き込んで充実させてほしい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none">・保護者や地域住民に参画を期待する教育活動について、場面や方法など、具現化するための具体的な方策を検討し、推進していく。	
「目指す学校の姿」の達成に向けた組織づくりや地域等との連携	<ul style="list-style-type: none">・家庭や地域と協働して、子どもを育てることの意義や必要性を確認できた。・公務の情報化を進めたことで、効率的な業務推進が浸透しつつあるが、未だ超過勤務の多い職員がいる状況である。・実現可能な具体的な取組の検討が必要である。	<ul style="list-style-type: none">・地域の小学校との連携、聾者との交流、商店街など地域リソースの活用、PTAの協力による図書館ボランティアは実現可能な取組と考えられる。・アイデアを実現するために、誰がどのように動くのかが大事である。
改善方策	<ul style="list-style-type: none">・目指す学校の姿に近づくために、学校・家庭・地域が一体をなした教育活動を推進するとともに、普段から教職員間で対話ができるゆとりを作り出し、心理的安全性の向上に努める。	
「目指す教職員の姿」の達成に向けた資質能力の向上	<ul style="list-style-type: none">・目指す姿の実現のために、グランドデザイン作成をとおして、一貫性のある教育を進めるための土台作りができた。・カリキュラム・マネジメントの視点で学習指導と評価の一体的な取組を進めることができた。・指導における専門性の向上には弛みなく学び続ける姿勢が必要である。	<ul style="list-style-type: none">・聾学校における重複障がい児の学習カリキュラムを充実させてほしい。・ICTの活用は今後も必須になるため、ICTを活用したコミュニケーション力を身に付けるための指導を行う必要がある。
改善方策	<ul style="list-style-type: none">・多様な子どもの実態に幅広く対応できる教員の指導力の向上に向け、「学び続ける教員」の育成を一層進めていく。	
公表方法	<ul style="list-style-type: none">・本校Webページでの公表・学校だよりへの掲載	

3 添付資料

- ・令和6年度 教職員による学校評価（集計結果）「令和6年度学校評価 教職員自己評価 集計結果」